

第4回名桜大学国際学群公開シンポジウム

沖縄人のネット 交流教育で活用

県系2、3世、移民経験者らが現状や課題、展望を発表

第4回名桜大学国際学群公開シンポジウム「WUBなどウチナンチュネットワークを活用した国際交流教育の可能性」(主催・名桜大、後援・沖縄タイムス社など)が21日、同大学多目的ホールであった。県系2、3世、移民経験者ら6氏が、県系ネットワークの教育分野への活用について現状や課題、展望などを語り、その具体化に向けて、今後とも大学側と議論を深めていく必要性を確認した。

他の日系人より強い団結

基調講演 ロバート・仲宗根氏



世界の人々がどれだけ海外(母国以外など)に住んでいるか。日本は2・1%、インドが2%、中国は4・5%。ウチナンチュは3人に2人が海外に住んでいる。ウチナンチュは世界に2000万人いるが、3人に1人が海外で暮らしていることになる。

例えばブラジルには14・15万人のウチナンチュがいる。ハワイは4・5万人、ペルーは約6万人。ペルーとアルゼンチンでは、日系人の約7割を占める。その数だけでなく、ウチナンチュは他の日系人と比べて団結が強い。復帰後、沖縄のマスコミが海外のウチナンチュを紹介し、沖縄でも県系人の活躍が知られてきた。世界のウチナンチュ大会も開かれ、昨年の第5回大会も約5000人が訪れ、盛況だった。

WUB(ワールドワイド・ウチナンチュ・ビジネス・アソシエーション)は県系人のビジネスネットワークの構築を目的に、1997年に設立。今では15カ国・22支部に広がり、ここには香港で16回目の会合を開いた。ビジネススケールは大きくないが、互いに顔を合わせての情報交換や交流は大変だと思う。

2008年に「WUBインターナショナル」の名称を「WUBネットワーク」に変更した。経済だけでなく、教育や文化の分野にも活動の幅を広げるためだ。私の父が沖縄からハワイに来た時、船で約3週間。IT技術が進歩してネット会議も可能になった。中国、インド、ウチナンチュは数千回かけて立派なネットワークを作った。沖縄はずっと百年前。私たちの歩みは、また始まったばかりだ。

私は11歳の時、ボリビアへ移住した。沖縄から戦後初めての行政移民で1954年、母(兄2人とともにオランダ船で那覇港を出た。ボリビアで船民受け入れ小屋の整備が間に合わず、柱だけの長屋で星を眺めながら夜を過ごした人もいる。

南米特有の大雨はついで雨が降らず、濁った水をドラム缶に積み、牛車で運んだこともある。井戸を掘ったが、表面が粘土のため掘り起すのは困難で、塩水が出てきた。真水の出るまで深さを掘るのは不可能だった。下痢に悩まされた。野菜も少なく、慣れない厳しい暑さで栄養の病がまん延し、疑心暗鬼の移住者は、飼犬をすてて処分することもあった。

59年にムリナ農学校へ入学。卒業後の62年、移住地の沖縄農業組合販売部に就職した。日中働きながら国立大学での勉強などを健康第一。

- 講演者・パネリスト紹介
- 基調講演
 - ロバート・仲宗根氏 (WUB創設者) ▽長嶺為泰氏 (WUBネットワーク会長)
 - パネリスト
 - 遠山光一郎氏 (シンガポール沖縄民間大使) ▽町田宗博氏 (琉球大学法文学部教授) ▽渡慶次正則氏 (名桜大学全学交流委員会委員長) ▽アンドレス・比嘉氏 (名桜大学大学院国際文化研究科1年次)
 - コーディネーター
 - 仲地清氏 (名桜大学大学院国際文化研究科長)

世界と沖縄の架け橋に

アンドレス・比嘉氏



アルゼンチン出身の県系3世で、今は名桜大学大学院で学んでいる。私はアルゼンチンから海外に出て「私はウチナンチュだ」と実感した。海外へ行くことも、留学生や外国人との交流があれば、自身の立場やアイデンティティが分かってくると思う。

将来は「世界と沖縄の架け橋になりたい」と考えており、この7月にブラジルで開かれた第1回世界若者ウチナンチュ大会に参加した。

世界中に広がるウチナンチュは現在、文化やアイデンティティの継承、言語の壁など多くの課題を抱えている。

第1回大会では課題に対する具体的な解決策は見いだせなかったが、第2回、第3回の大会を通じてまとめていくことを確認した。大会で①ウチナンチュネットワークの拡大・強化②アイデンティティの確立③沖縄文化の継承④国境を越えた理解・共感⑤失われつつある文化への再注目⑥次世代を担うグローバルリーダーの育成の6点を目標として定めた。

この6つの目標は「ウチナンチュの強いネットワークをつくるための基盤」。沖縄移民の歴史は100年ほどでまだ短い。1人の力では何もできないので、一緒に「いいかな、いいかな」やりましょう。

移民先を有効な場所に

町田 宗博氏



国際交流を理解するため、ブラジルの移民社会について考えてみたい。ブラジルは世界最大の日系移民社会で、日系人は約150万人。その1割は沖縄系と言われている。

昨年あたりから、子どもたちが出演するブラジルの人気番組で、8歳のメリッサ・クニヨシさんの歌声が評判になっている。祖父が読者の出身らしい。インターネットの動画でも紹介され、日本でも注目されつつある。才能豊かな人材を輩出する背景には、沖縄コミュニティの強さがあるのかもしれない。

移民100周年を祝う式典に沖縄からチャーター便が出た。世界のウチナンチュ大会の開催などは、日系社会に衝撃を与えている。多くの県人会が活性化に苦心しているのに対して、沖縄県人会は非常に多く、日程調整が課題になるほどだ。ウチナンチュが特定のエリア(シマ)に集中して暮らしているからだろう。

ウチナンチュはシマ社会をベースに独自の文化を保持しながら、現地社会(他文化)と融合していった。

国際化とは多様性を受け入れ、互いを認め合うことにはかならない。沖縄を離れた異郷の地から、沖縄が見えてくる。南米など県人の移民先は、国際化教育の有効な場所だと思ふ。

留学推進の学内体制を

渡慶次 正則氏



名桜大学は21の海外交流協定校と協定を結ぶ。これまで約280人の学生を派遣し、約130人の学生を受け入れてきた。さらに正規カリキュラムの海外プログラムでは、国際文化系の3年次学生が中南米アジア、英語圏のコースに分かれ、2〜3週間の実習(現地の文化や生活に触れ、語学力を磨いている。観光産業系の「海外インターシップ」は、マレーシア、韓国、台湾のホテルで1カ月程度仕事する海外での就業体験プログラム。大学院では「世界展開強化事業」に参加し、東南アジア5大学との交流事業を行っている。

カリキュラム外でも2000年からアジア交流学生会が参加。13年度は名桜大学がホスト校となり、国際学生会議が開かれた。

改善点として、国際交流に対応する国際交流課や派遣留学生の経験や能力を集約する組織の設置のほか、留学生会館の建設など外国人留学生の活用、海外留学を推進する学内体制の整備などが必要ではないかと思う。

海外との交流の原点は人と人との交流。互いによく知るから学生を派遣したり、受け入れたりできる。WUBネットワークの間にも素晴らしい国際交流ができると思ふ。

心の中の言葉にヒント

遠山 光一郎氏



2浪して沖縄国際大学の夜間部に入学後、頑張って1部に切り、台湾へ短期留学した。海外の学生が学ぶ様子を自分の目で見たいと、猛烈に、県費留学でシンガポールの国立大学に行つた。卒業後、ベトナムやシンガポールなどで働きながら、社会の変化や物流について学んだ。

シンガポールに琉球クリエーターネットワークを設立し、コンサルタントと小売業を独立。当初の3年は非常に好調で、地元メディアでも紹介されたが、リマンショックや売出しでいたシンガポールフライヤー(世界最大級の観覧車)の事故を受け、毎月数百万円の赤字になった。夜も眠れない日々が続いたが、家族がいたから乗り越えられた。小売り部門を整理縮小後、コンサルタント業務を強化。3年前から県委託職員として、県内企業のシンガポール進出を手伝っている。

大学や県人との交流や連携は個人的にもやっていきたい。英語を外国語とする人への教育プログラムもある。実際にシヨブチャレンジとして短期1週間の受け入れや、長期滞在の人の派遣先を探すなどの支援をやっている。

学生はセミナーで多くの人の話を聞き、進路に迷うことがあると思うが、迷ったときには心の中にある言葉や答えに目を傾けてほしい。

海風と緑とともに学ぶ、やんばるの4年間。



願書受付期間 平成25年1月28日(月)~2月6日(水)

一般入試 前期日程 2月25日(月)
後期日程 3月12日(火)

個別学力検査

●国際学群前期日程は、「東京」「大阪」「福岡」で受験できます。
●スポーツ健康学科後期日程は、「福岡」で受験できます。

公立大学法人
名桜大学
MEIO UNIVERSITY
NAGO・OKINAWA

国際学群
国際文化専攻/語学教育専攻/経営専攻/情報システム専攻/診療情報管理専攻/観光産業専攻

人間健康学部
スポーツ健康学科/看護学科

大学院
国際文化研究科/看護学研究科

資料請求先: 名桜大学 教務部入試課 TEL.0980-51-1056 www.meio-u.ac.jp